

平成26年度決算の状況

平成26年度 水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

水道事業は、給水人口の減少や節水機器の普及及び節水意識の定着等による使用水量の減少に伴って、料金収入が年々減少しており、経営的には非常に厳しい状況となっています。

これにより、いっそうの経費の節減等による経営の健全化に努めましたが、地方公営企業会計制度の大幅な改正が行われ、平成26年度の予算及び決算から会計制度の見直し等が適用されることに伴い、引当金計上の義務付け等による特別損失等が生じたため、今年度は大幅な赤字となりました。

水道事業の財政運営は、今後も一段と厳しいものになっていくものと想定されますが、将来の水道事業の目標や実現するための具体的な施策を示した「大竹市水道ビジョン」に基づき、施設の更新、耐震化を計画的・効率的に推し進め、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けてさらに取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,291,141^m³（1日平均9,017^m³）で、前年度と比較して80,726^m³（2.4%）の減少となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で73,192,284円（うち消費税及び地方消費税3,335,999円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・防鹿水源地場内配管改良工事	15,437,520円
・南栄二丁目地内配水管改良工事	9,747,000円
・油見一丁目地内配水管改良工事（その3）（平成25年度繰越分）	4,352,400円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成26年度の収益的収支は、収入総額 527,876,315円、支出総額 585,037,713円で、差引き 57,161,398円の純損失となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	527,876,315円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	585,037,713円
	差引不足額	57,161,398円
資本的収支	収入総額	40,274,209円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	112,540,728円
	差引不足額	72,266,519円

資本的収支の不足額72,266,519円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 3,511,102円、過年度分損益勘定留保資金 68,755,417円で補てんしました。

平成26年度 工業用水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

工業用水道事業は、これまで安定した工業用水の供給を行うことで、本市の産業の活性化に寄与してまいりましたが、旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費が財政を大きく圧迫しており、また、平成24年度をもって受水契約の一部が期間満了になるなど、料金収入が減少したため、厳しい経営環境となっています。さらに、8月の大規模な集中豪雨による施設損害への対応がでるなど費用がかさんだため、本年度は純損失となりました。

今後は、適切な施設の維持管理を行うとともに、より一層の経費節減を図りながら経営の健全化に努めてまいります。

(ア) 営 業

本年度の有収水量（計量分）は、9,659,352 m^3 （1日平均 26,464 m^3 ）で、前年度と比較して213,421 m^3 （ Δ 2.2%）の減少となりました。

(イ) 建設改良

本年度は、施設の改良工事に総額で 8,371,080円（うち消費税及び地方消費税 620,080円）を支出しました。

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成26年度の収益的収支は、収入総額 528,327,622円、支出総額 548,175,018円で、差引き 19,847,396円の純損失となりました。

なお営業外費用中、企業債利息 114,091,477円の財源にあてるため、未売水企業債利息債 21,900,000円を借り入れました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	528,327,622円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	548,175,018円
	差引不足額	19,847,396円
資本的収支	収入総額	212,200,000円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	465,402,277円
	差引不足額	253,202,277円

資本的収支の不足額 253,202,277円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 620,080円、過年度分損益勘定留保資金 252,582,197円で補てんしました。

平成26年度 公共下水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

公共下水道事業は、処理人口の減少や節水機器の普及等による処理水量の減少に伴って、使用料収入が年々減少しています。また、地方の小都市としては比較的早くから事業展開を行なってきたことから、事業認可区域内における整備はほぼ完了していますが、一方で施設の老朽化が大きな課題となっており、経営的に非常に厳しい状況となっています。

そのため、下水処理場やポンプ場等の施設の延命化と維持費の平準化等による中長期的な費用の抑制を図る「下水道長寿命化計画」を策定し、経費の節減等による経営の健全化に努めた結果、今年度も利益を計上することができました。

今後も、いっそうの経営の健全化に努めるとともに、安心して生活を営むために不可欠な、快適な生活環境の維持と公共用水域の水質保全に取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、2,981,554 m^3 （1日平均 8,168 m^3 ）で、和木町からの受入水量は、1,386,768 m^3 （1日平均 3,799 m^3 ）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.6%を達成し、人口普及率も94.2%であり、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で 134,489,928円（うち消費税及び地方消費税 8,843,809円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・大竹下水処理場自家発電設備改築更新工事 38,880,000円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成26年度の収益的収支は、収入総額 983,939,407円、支出総額 884,568,045円で、差引き 99,371,362円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	983,939,407円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	884,568,045円
	差引利益額	99,371,362円

資本的収支	収入総額	176,198,431円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	477,319,178円
	差引不足額	301,120,747円

資本的収支の不足額 301,120,747円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 4,118,420円、過年度分損益勘定留保資金 226,502,963円、当年度分損益勘定留保資金 70,499,364円で補てんしました。